

各水試発トピックス

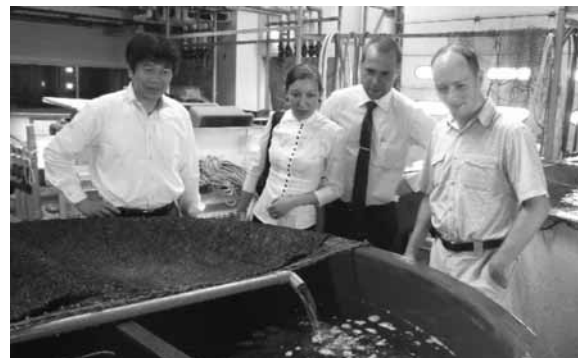
第40回日口研究交流開催される

水産研究本部とサハリン漁業海洋学研究所（サフニコ）との第40回日口研究交流が、平成22年6月17、18日に中央水試で開催されました。サフニコ交流団のフロロフ応用生態部長、ザバルジン上席研究員、レプニコワ技師は6月16日にユジノサハリンスクから空路で新千歳空港に到着し、札幌市内を視察したあと、余市町に移動しました。今年のサフニコ交流団の年齢は25～31歳と若く、これからの日口研究交流を担っていく研究者の方々でした。

翌17日は、中央水試で研究発表会が行われ、午前中は汽水湖と内水面に関する情報交換として、水産研究本部から網走湖のプランクトンに関する発表とイトウの保全に関する発表、サフニコからサハリン南部トゥナイチャー湖のプランクトンに関する発表が行われました。午後からは、サフニコからコマイの寄生虫に関する発表と水産研究本部からアサリの原虫症およびニシンの成長に関する発表が行われました。その後、日口研究交流の第4次共同研究として行われている「コンブ漁場における海洋環境と生態に関する日口比較調査」について、水産研究本部とサフニコから研究発表



研究発表会で報告するアンナ・レプニコワさん



中央水産試験場内施設見学

が行われ、双方の研究の進捗状況や今後の研究報告の投稿方針などが話し合われました。

6月18日、研究交流終了後、小樽市水族館を視察されたサフニコ交流団は札幌市に移動し、翌19日に北海道神宮や大倉山シャンツェなどを見学されたあと、新千歳空港から空路ユジノサハリンスクへ帰国しました。

来道初日は雨に見舞われたものの、翌日からは絶好の研究交流日和となり、中央水試屋外で行われた焼き肉パーティーによる歓迎会や、サッポロビール園での送別会も喜んでいただき、水産研究本部職員との親睦も大いに深まりました。

(夏目 雅史 水研本部企画調整部)



吉川水産研究本部長との意見交換